

第2次隠岐の島町総合振興計画策定に係る 意見交換会

【日 時】：令和元年7月3日（水） 18時00分～20時00分

【会 場】：隠岐病院 会議室

【出席者】

●隠岐広域連合立隠岐病院 長谷川院長はじめ医師の皆様 【5名】

●隠岐の島町役場

総合振興計画策定委員：是津主任 三島専門幹 西尾企画幹

地域振興課：佐々木課長 黒川係長 泉 企画幹

第2次総合振興計画の策定に向け、「隠岐の島町における医療の現状」や「隠岐の島町における目指すべき医療のあり方・体制」について意見交換会を行いました。

会の中では、医師及び看護師など医療従事者の人材不足問題や医療体制の連携や充実など医師の皆様から、貴重な意見を頂きました。

①隠岐の島町における医療の現状について

<隠岐病院>

- ・常勤医師の確保が今後さらに困難になる見込み
- ・看護師不足により、島外から看護師を派遣してもらっている状態。
- ・ドクターヘリで、本土の病院につながりよりスムーズに専門的な医療を受けることが出来るようになった半面、元々隠岐病院で完結していた治療も本土で治療を希望する患者が増えている。本土の病院へ治療希望者が多いので、今後病院としてどう考えるか？
- ・隠岐病院では科学療法（がん治療）が出来ないため、患者は、本土に出て治療しなければならない状況となっている。
- ・今年から外科医が2人→1人になりできることが限られてきた。また、緊急時の対応が難しくなった。3年後、外科医が確保できなければ、隠岐病院で手術が出来なくなる可能性もありうる。

<隠岐病院以外>

- ・一次医療の診療所及び開業医院の運営が医師不足などで難しくなっているため、隠岐病院の役割がどうあるべきか見直さなければならない。

（例：診療所、開業医と隠岐病院をつなぐオンライン診療や送迎バスなど）

② 目指すべき“医療のあり方・体制”について

- ・一次医療（診療所や開業医院）と連携しながら二次医療（隠岐病院）が中心的役割を担うべき。
- ・医師・看護師不足により、隠岐病院の役割を見直す時期にきているのではないか。
- ・看護師が本土で免許取得後に、隠岐に帰ってきやすい環境づくり
- ・隠岐の島町でもさらに医療が学べる体制づくり

- ・ 研修費用の助成制度の創設
- ・ 医療環境の整備に向けた本土との効果的な連携
（搬送手段の確保、島民の負担軽減）
- ・ 医療人材の育成・確保に向けた環境整備の充実
（魅力発信、研修医の受入環境整備）
- ・ 地域医療の先進地としての魅力ある職場づくり
（診療所・開業医との連携、コミュニティと一体となった地域包括ケアシステム）
- ・ IOT の活用
（オンライン診療・電子カルテなど）

隠岐病院医師の皆様からいただきましたご意見・ご提言は、今後の計画の策定内容の参考とします。

